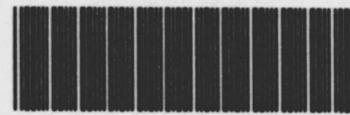


279
96

国民学校放送効果調査報告
社団法人日本放送協会編



0044414000

0044414-000

279-96

国民学校放送効果調査報告

日本放送協会・編

日本放送協会

第3回

昭和17

AHF

279

96

本

昭和十六年十二月

第三回 國民學校放送效果調查報告

駐日
法人
日本放送協會



國民學校放送調查報告



序

國民學校放送は、特殊な対象放送であり、教師の指導の下に教室に於いて團體聴取されることを建前としてゐる。従つて、この教育放送の番組企畫や提出の方法には、常に放送効果と共に教育的な効果の確保を期さなければ、その實を擧げることができないわけである。その意味で、當放送協會では學校放送效果調査の實施を、屢々行つてきたのであるが、本調査報告はその第三回目に當るものである。

昭和十三年の第二回效果調査は、全國的に實施されたものであるが、今回は、特に東京市内國民學校十二校に依頼し、更に低學年向放送の效果調査に限定して行つた。そして、調査形式を單純化して題外的な報告や具體的な改善資料を蒐めることに努めたのである。放送と聴取に際して、最も問題の多い低學年向放送をとりあげると共に、都市國民學校に於ける聴取指導の實際と兒童反應を報告して貰つたわけである。

なほ本調査實施に御協力を賜つた調査依頼校並に、報告書集計に御盡力を頂いた日本大學心理學研究室の方々に深甚なる感謝の意を表する次第である。

昭和十六年十二月

社団法人 日本放送協會

第三回 國民學校放送調査報告目次

調査資料……………一

調査題目……………一

調査範圍……………一

調査方法……………三

結果……………五

學年別題目別整理……………五

内容別整理……………一七

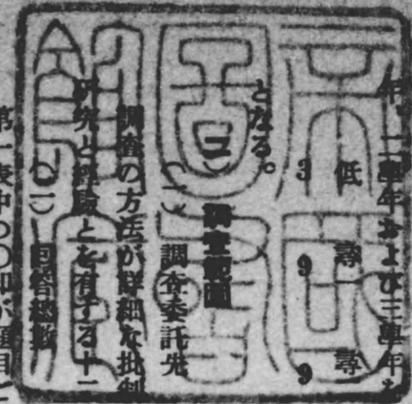
總括……………三三

一、調査資料

(一) 調査題目

本調査は昭和十四年十月二十五日から昭和十五年三月五日までの間におこなはれた學校放送のうち、低學年、一學年および二年生を対象とした放送題目二八に對する調査である。題目を學年別に見ると、

低	7	尋三	28	計
18	低	尋一	23	尋二
27	尋一	尋二	21	尋三
21	尋一	尋二	89	計



第一表中の○印が題目ごとに回答されたものであるが、これを學年別に見ると次のやうになる。

調査の方法が詳細な批判・記述を要求するものであつたので、調査委託校を厳選し、東京市内の放送教育に多年の経験と経験とを有する十一校に依頼したものであらう。委託校並に回答者氏名は第一表に示したとほりである。

學校放送效果調査用紙

氏名	
學校	

対象	種目内容	放送者	發局	月日
	主題・材料の適不適・選擇の方針なり方法なりの批判			
	右の題材に配された形式の適不適・用語・様式・場面轉換・伴奏・擬音効果等の批判			
	題材・形式・放送全體を通じて今後發展的に解決すべき問題			

三、結果

(一) 學年別題目別整理

調査票に記入されたものは冗漫な敘述もあり、不必要な記述もあつたので、それらを排除し、回答者の意圖してゐる要點を放送題目別・學年別に整理したのが第二表乃至第五表である。表中、教師(よい)(わるい)、兒童(よい)(わるい)、(その他)までの欄は調査票の「題材」「形式」の欄の記述を整理したもので、その下欄の教師、兒童の二段は調査票の「問題」の欄の記述を整理したものである。

教師が回答したものであるが、その内容が教師の立場からのものである場合には「教師」の項に、教師が兒童の立場から述べたものである場合には「兒童」の項に整理して置いた。(よい)(わるい)の項は放送が「よかつた」「わるかつた」と批判されたものであつて、(その他)の項はその兩者いづれとも判斷し難い批判・希望などを一括したものである。

表中の数字は同一の記述がその数だけ回答されたことを意味し、数字のないのは一回答だけであることを意味してゐる。

第二表 學年別題目別整理 (低學年)

題目 立 場	材 形 式				問 題 (批 判)	
	教 師	兒 童	そ の 他	教 師	兒 童	
よい						
わるい						
よい						
わるい						
その他						

だるまさん材料ガヨイ。用語ニ注意。「だるま」ヲ轉「だるま」ヲ片
「ラヂオ」ヲ聴取スト兒童ノ生活中ノ不思議

第十一表は本調査の主眼とも云ひ得る點と思はれる。詳細の記述は表に譲ることとするが、教師の批判が主として表現・形式・材料・主題に集中してゐることに着目すべきであらう。ここには各放送題目に即して、それぞれ適切な問題が提示されてゐる。

第十二表は兒童の立場からの問題を整理したものであるが、表現・材料・主題・形式の外に、興味といふ項目が取り立てられてゐることは考慮すべきことである。(第七表乃至第十二表の上部に掲げた圓形圖はそれぞれ)

いづれも放送題目に即して反省すべきことが多いやうであるが、放送者側への聴取者の立場からの意見として、一應は首肯されるやうな批判が述べられてゐることだけは看取されるのである。

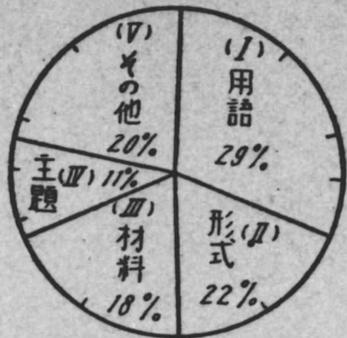
第六表 内容別整理

百分率	総数	題材・形式		問題(批判)	
		教師	兒童	教師	兒童
27.9	151	よい	わるい		
15.3	83	わるい	よい		
8.3	45	よい	わるい		
11.4	62	わるい	よい		
28.8	156			教師	兒童
8.3	45			兒童	教師
100	542			計	合

第七表 内容別整理

歌謡(よ)計(151)

(2) 主	(1) 材
題 21% (32)	料 31% (47)
心氣國勇具ト生男者概 ノ品族壯體ノ子東ニ想評 交ノニ美的子供京ヘヨ ル高對ト悲活モヨイ 美サスル壯ニ經委 シノ高麗美トヨシテ サ高麗感ノ混和生 (村祭の日)	地方色豊ナ歌ガガ善導 子供ノ批判ヲ加ヘタコト 地子手理動遊理兒兒 方供節科的ノ科童童 色ヲ描的ニ中的生ノ評 豊ナ喜寫態生ニ研活ノ ナ歌ガガ善導ヲ科心中 加ヘタコトヲ具的ヲカ 疑問ダケデナク、製作ニマデ及ンダコト。



(2) 形	(3) 材	(4) 主
式 22% (18)	料 18% (15)	題 11% (9)
<p>朗読「スケッチ」が判ラナイ。(軍旗)</p> <p>劇中「ハロウ」(梅)</p> <p>東京「夜明」描寫ハクドイ。(東京の一日)</p> <p>モット「印象」表現方法ヲ取ツタガヨイ。(私タチノレンブン)</p> <p>演出「ガク」(白兔)</p> <p>演目「追力」(白兔)</p> <p>事件「ガク」(白兔)</p> <p>幼稚園「ガク」(白兔)</p> <p>単ナル「ガク」(白兔)</p>	<p>低調「ガク」(白兔)</p> <p>改作「ガク」(白兔)</p> <p>馬方「ガク」(白兔)</p> <p>氏「ガク」(白兔)</p> <p>不自然「ガク」(白兔)</p> <p>委致「ガク」(白兔)</p> <p>原解「ガク」(白兔)</p> <p>子供「ガク」(白兔)</p> <p>場所「ガク」(白兔)</p>	<p>選題「ガク」(白兔)</p> <p>オ月「ガク」(白兔)</p> <p>不自然「ガク」(白兔)</p> <p>現化「ガク」(白兔)</p>

第九表 内容別整理

見 査 (よ) 計 (45)

(9.5) 程	(9.5) 合	(8) 録	(7) 場面轉換	(6) 音	(5) 撮
度 1% (1)	唱 1% (1)	音 2% (2)	換 4% (3)	樂 5% (4)	音 7% (6)
女ノ方ノ話ハヤヤ優シ過ギル。(お手々つないで)	最初ノ「勇敢ナル水兵」ハマツイ。(軍艦ごっこ)	野球録音ガ長過ギル。(同前)	雑音ガアル。(東京の一日)	ハツキリシナイ。(軍艦ごっこ)	初ノ音ノ意味ガ不明。(みんな一緒に)

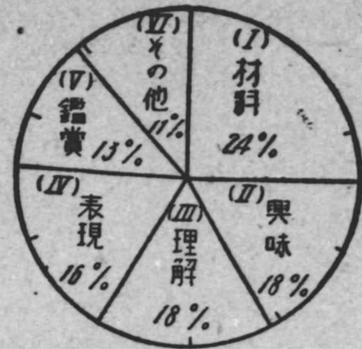
具體的ナ身近ナ材料ダツタ。(どの子がよい子)

教科書デ習ツタ知識ヲ混雜サセナイ。(花咲翁)

「色試スコト」ノ歌ガヨイ。(だるまさん)

「色試スコト」ノ附ケ加(タノ)ハヨイ。(同前)

神主ガ居タノハヨイ。(早鳥物語)



Category	Percentage	Count	Description
(1) 材料	24%	(11)	現実的ナ話デアツタ。(揚げ上日の丸) 日常生活ニ即シタ。(みんな一緒に) 日常生活ニ即シタ。(村祭の日) 祭ヲ取リ上ゲテノ放送ハヨイ。(村祭の日) 生活ニ喰ヒ入ルトコロガヨイ。(同前)
(2.5) 興	18%	(8)	子供向ノ放送トシテ面白ク聴ク。(2) 卵殻デ(ダルマ)ノ製作ヲスルノ面白イ(だるまさん) 第三景ヲ喜ブ。(ニイサンノ入替) 興味深ク聴ク。(僕らは仲よし) 興味深ク聴ク。(山の上)
(2.5) 理	18%	(8)	内容ガヨク聴キ取レタ。(僕等ノ勳章)(学校ゴッコ)(2) 主題ハヨク理解サレタ。(私達ノシンブン) 主語ソノマデ理解サレタ。(ニイサンノ入替) 録音ハ児童ニビツタリ判ツタ。(白い鳥の皇子) 無理解ナケレバ解シカネル放送デアツタ。(サルカニ合戦)
(4) 表	16%	(7)	立体的ナ表現ハヨイ。(学校ゴッコ) 題名(だるまさん)ハシタシヤシイ。(だるまさん) 聴取ヲ作業ニ移シタ点ガヨイ。(同前) 解説ト歌曲ト取リマゼテイッダ点ガヨイ。(ニニース)童話集) 鮮明ナ色ノ豊サ。(同前) 前奏ガ効果的。(村祭の日) 教室ノ学習ハ味ヘナイ點マデモ十分ニ味ヘタ。(コブトリ) 神話ニ自然ニシムコトガ出来タ。(ひなまつり) 兒童ハ自然ニシムコトガ出来タ。(ひなまつり) 非常ニ感ズル教壇ナ感。(かやひめ) 國旗ニ對スル敬虔ナ感。(揚げ上日の丸)
(6) 鑑	13%	(6)	音響ガ早過ギル。(早く来イオ正月)(軍艦ゴッコ)(早鳥物語) 感激ガナイ。(ひなまつり)(僕らは仲よし)(みんな一緒に)(4) 用語ニアクセントガ粗悪。(白兔)(白い鳥の皇子)(東京の一日)(3) 放送ノ運方ガ早過ギテ考ヘル餘地ガナイ。(だるまさん)(2) 言葉ヲハツキリト。(早鳥物語)(揚げ上日の丸)(2) 鬼ガ(僕)トイフノハツカシイ。(コブトリ) 終ガ物足リナイ。(軍艦ゴッコ) メロディニ早ク走ルカヲ簡單ニ片附ケナイコト。(早鳥物語) 齊唱合唱ガ拙。(ニニース)童話集) 梅ノ頃デナイ春ノ日ヲ思ハセル。(梅) 用語ノ誤音ノ唱ニ不正確。(白兔) 程度ガ高イ。(かやひめ) 朗讀ガ不正確。(白い鳥の皇子) 唄ハ行キ過ギ。(白兔)
(7) 場面轉換	4%	(2)	「ダルマ」ヲ轉ス擬音ガヨイ。(だるまさん) 聲ノ擬音ガヨイ。(村祭の日) 明瞭。(ニイサンノ入替) 轉換ノ解脫ガヨイ。(白い鳥の皇子)

第十表 内容別整理
児童 (わさ) 計 (62)

Category	Percentage	Count	Description
(1) 表	40%	(25)	音響ガ早過ギル。(早く来イオ正月)(軍艦ゴッコ)(早鳥物語) 感激ガナイ。(ひなまつり)(僕らは仲よし)(みんな一緒に)(4) 用語ニアクセントガ粗悪。(白兔)(白い鳥の皇子)(東京の一日)(3) 放送ノ運方ガ早過ギテ考ヘル餘地ガナイ。(だるまさん)(2) 言葉ヲハツキリト。(早鳥物語)(揚げ上日の丸)(2) 鬼ガ(僕)トイフノハツカシイ。(コブトリ) 終ガ物足リナイ。(軍艦ゴッコ) メロディニ早ク走ルカヲ簡單ニ片附ケナイコト。(早鳥物語) 齊唱合唱ガ拙。(ニニース)童話集) 梅ノ頃デナイ春ノ日ヲ思ハセル。(梅) 用語ノ誤音ノ唱ニ不正確。(白兔) 程度ガ高イ。(かやひめ) 朗讀ガ不正確。(白い鳥の皇子) 唄ハ行キ過ギ。(白兔)

第三十表 内容別括括

計	鑑賞	表現	理解	興味	録音	合唱	程度	伴奏	音楽	場面	場面	用語	形式	主題	材料	内容		批判の立場
																教師	児童	
151				2	2	2	4	6	6	7	13	29	32	47	1	1	題	
83				2	1	1		4	6	3	24	18	9	15	1	1	材・形式	
45	6	7	8	8						3	2				11	1	児童	
62		25	18	3						3	1				13	1	児童	
156		42						9	7		4	35	26	33			教師	
45		14		8								5	6	12			児童	
542	6	88	6	19	4	3	3	4	19	25	13	41	87	73	131		計	
	11	2	6	8.5	12.5	13.5	13.5	12.5	8.5	7	10	5	3	4	1		位	

るあでのもす示を数項事答回は字数の外以位順

のが甚しく多数である。表現については児童の(わるい)といふものが(よい)といふものに比べて三倍以上もあることは注目すべきである。批判については教師が材料・主題・形式・表現の四項に集中的になつてゐることが特色である。また材料・主題・形式・用語・場面轉換・擬音・音楽・伴奏・程度・合唱・録音・興味・理解・表現・鑑賞の十五の観點が放送に當つて留意すべき主眼點であると云へるのであるが、これを各項について、調査結果からの放送上の参考となるやうな事柄を略述すると、

(1) 材料は児童の生活に接近したものかあるひは児童の生活中から取材することが望しい。また、児童が放送内容を聴取しながら同時にそれを作業出来るやうにしたいものである。難解のものは避けるやうにし、改作とか原作とかには十分な検討を加へ、排列には遺憾のないやうにし、主題の意圖を適確に表現することの出来るもので、しか

- も学校の授業では出来ないやうなものが望しい。
- (2) 主題については具體的な生活指導の出来る、氣品の高い、實感の伴ふやうなものを教育的に一貫した精神をもつて選擇するやうにしなければならぬ。
 - (3) 形式については他教科との聯絡を緊密にし、自然なもので、主題の意圖を明瞭に聴取することが出来るやうに童話・劇・スケッチ・ニュース・劇中劇などを按配し、無理のないものに纏め、教材の劇化・朗讀劇の構成・配役などには一層の研究を要する。
 - (4) 用語は平明・流暢なものを用ひ、標準語に近づけることに努め、訛音・アクセント・速度・話術などには十分な注意を拂はなければならぬし、一人二役などによる不自然は排斥したい。
 - (5) 場面轉換は地理的移動の場合は實情と懸隔があつては奇異の感を起させる。また不明瞭にならないやうにするために、或る場合には解説などが必要となる。
 - (6) 擬音は對象によつて考慮し、音量・音質などを吟味しなければならぬ。
 - (7) 音楽も伏線的に用ゐるべきものが表面にあらはれ過ぎたり、あまりにも冗漫な伴奏になつたりしないやうに、表現上の技術的研究の一面として考慮すべきであらう。
 - (8) 伴奏も音楽について述べたことと大差はない。
 - (9) 合唱についても右と同様である。
 - (10) 程度はよく注意し、學校の進度とも合致するやうにしたい。
 - (11) 録音も效果的に使用すべきで、録音でさへあれば實感が伴ふと誤解してはならない。但し、用方によつては効果が著しく大きいことがある。
 - (12) 興味は児童の立場からは大いに注目すべきことであつて、児童の興味を喚起することに効果のあるやうな具體的な研究が望しい。

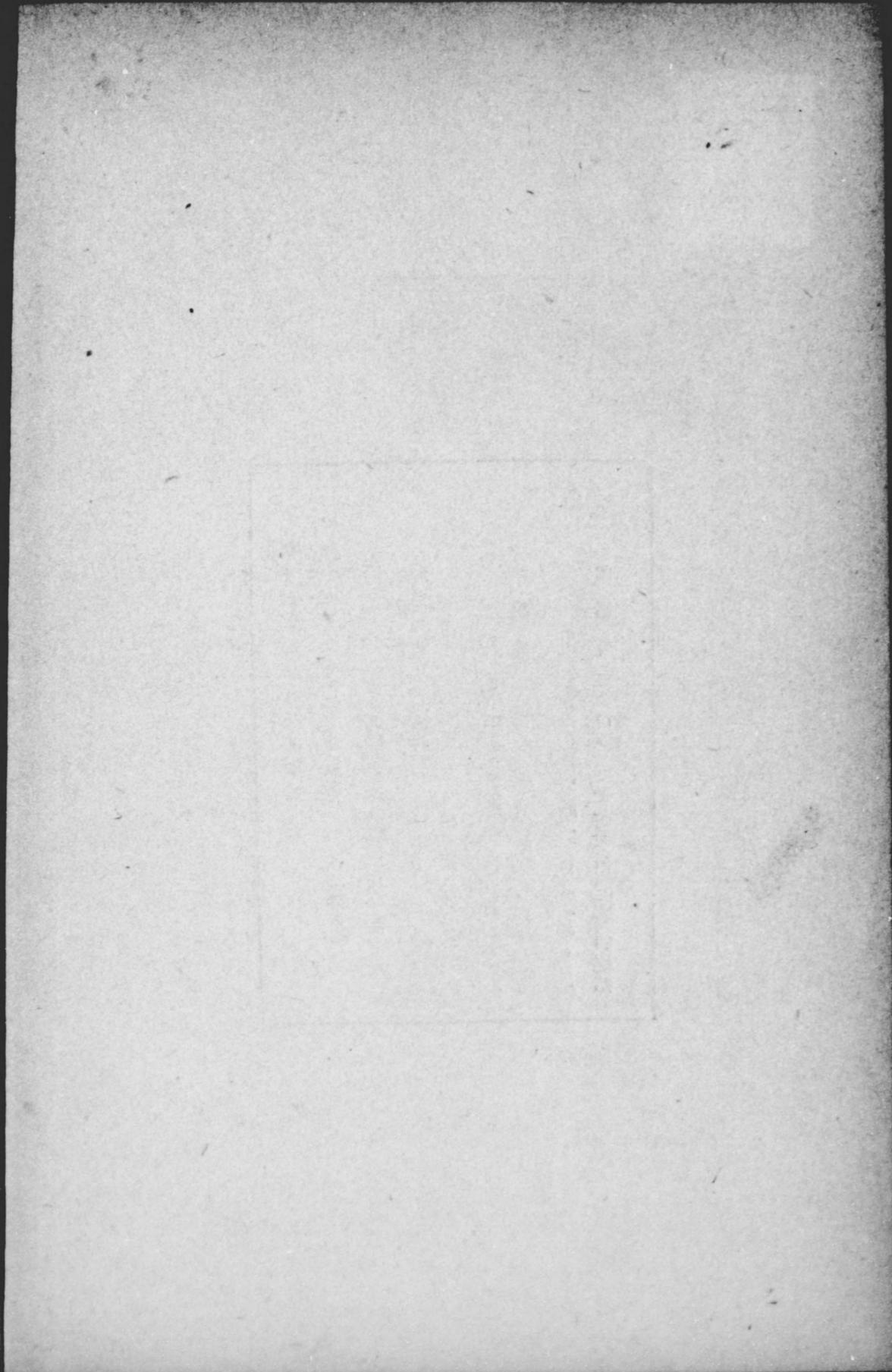
(15)(13) 理解 (14) 鑑賞 これらは興味と關聯し兒童の立場からは深くおもひをいたさなければならぬ事項である。
 表現 前記十四項の綜合と云へるかも知れないが、放送技術・解説・演出などを研究し、時には誇張があつてもよいであらうし、また話の内容を制限する必要のあることもあるであらう。いつも題材に應じて、適切な表現をなすことが肝要である。要するに兒童に教養的な高い情趣、雰囲気浸らせるやうにしたいものである。
 以上が内容の總括であるが、十分には云ひ盡すことの出来ない點もあつたから、具體的には箇箇の内容を題目と關聯させながら、圖表を熱視して、回答者の意のあるところを斟酌し、もつて今後の放送の發展的示唆として活用せられたい。

昭和十七年九月十五日印刷
 昭和十七年九月二十日發行 (非賣品)
 編輯兼 東京市麹町區内幸町二丁目二番地
 發行者 社団法人 日本放送協會
 松田儀一郎
 印刷者 東京市芝區田村町一丁目・テキストビル
 和田利彦
 印刷所 東京市芝區田村町一丁目・テキストビル
 株式會社 日本放送出版協會印刷部

279
96

製本控

279	函	96	號	年	月	日
第三回國民學校放送效果調查報告						
備考						



279
96

